

平成21年度事業概要報告書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」は、日本の開国、横浜の開港を祝う催事であることから、横浜だけにとどまることなく近代日本を祝う、半世紀に1度の大きな節目として捉え、横浜の「歴史、港・海・船、教育、環境」などをイベントの具体的なテーマとし、神奈川県民、横浜市民をはじめ、国内外の多くの皆様、特に次世代を担う青少年や子供たちに、直接触れることのできる機会を提供することを重点に取り組みました。

また、事業の運営にあたっては、国・県・関係市町村と連携した事業展開を図るとともに、多様な市民の方々が参加できるような取り組みも積極的に実施しました。

事業結果としては、事件事故もなく、関連イベントも含め、会期中は約748万人もの来場者をお迎えし、経済波及効果は約622億円にものぼりました。

《事業実施内容》

1 事業活動収入 8,153,372千円【予算現額：10,685,817千円】

《主な内容》

横浜市及び神奈川県の補助金のほか、さらに、収入の確保に向けて、賛助会員の加入促進を図るとともに、旅行代理店・コンビニエンスストア・チケットセンター等の販売チャンネルを中心とした入場券の委託販売や、賛助会員・官公署・町内会・自治会などへの直接販売を行うとともに出札窓口での販売を行いました。また、企業・団体等を対象に協賛金等の確保を進めるとともに、マスコットキャラクター等の商品販売に伴うライセンス使用料や、イベント会場内での公式記念品販売に伴う売上納付金、施設使用料など、財源の確保に努めました。

なお、予算現額に比して決算額が25億円を超える減となっていますが、これは、主に有料会場への入場者が当初計画を下回ったことにより、入場券販売収入及びマスコットキャラクター等の商品販売に関する収入が減ったものです。

○ 横浜市補助金収入

3,267,318千円 [予算現額：3,267,318千円]

○ 神奈川県補助金収入

7,681千円 [予算現額：7,853千円]

- 助成金収入 **34,699千円** [予算現額：37,700千円]
- ・(財) 日本船舶振興会 24,400千円
〈「横浜の海と港の学習機会の提供」助成金〉
 - ・郵便事業(株) 3,300千円
〈平成21年度カーボンオフセット年賀寄付金助成金〉
 - ・(社) 関東建設弘済会 6,999千円
〈平成21年度公益助成事業助成金〉
- 賛助会員会費収入 **26,940千円** [予算現額：30,000千円]
1口3万円×898口(658社)(予算：1口3万円×1,000口)
- 入場券販売収入 **2,456,881千円** [予算現額：4,734,879千円]
入場券販売枚数：1,891,894枚
〈前売期：1,196,763枚、当日期：695,131枚〉
- 事業収入 **2,292,177千円** [予算現額：2,603,425千円]
- ・資金等参加収入
2,093,483千円(予算現額：2,165,385千円)
〈協賛金：1,565,175千円、物品・役務協賛：528,308千円〉
 - ・ライセンス使用料収入 51,906千円(予算現額：70,000千円)
 - ・売上納付金収入 70,168千円(予算現額：275,000千円)
 - ・施設使用料収入 53,040千円(予算現額：53,040千円)
 - ・駐車場収入等 23,580千円(予算現額：40,000千円)
- 受取寄付金収入 **35,000千円** [予算現額：0千円]
資金参加の一環として、2企業からの寄付
- その他収入 **32,676千円** [予算現額：4,642千円]
- ・消費税還付金 16,460千円
 - ・出展に伴う共益費、預金利息等 16,216千円

2 事業活動支出 12,527,940千円【予算現額：12,527,940千円】

(1) 事業費 [11,535,737千円 予算現額：11,626,931千円]

《主な実施内容》

ベイサイドエリアの有料3会場では、横浜開港150年の歴史や開国・開港の時代の映像・体験型展示、日本初上陸の「ラ・マシ」によるパフォーマンスの実施やSFファンタジー「BATON」の上映、地球環境をテーマとした「HOME」をアースバルーンで夜間上映、高精細高解像度映像を「スーパーハイビジョンシアター」で上映、宇宙天文年の開催や再使用ロケット実験機の展示・月周回衛星「かぐや」の撮影映像の公開などを展開しました。また、ヒルサイドエリアでは、豊かな自然の中で、ヒトとヒト・自然・地球など、さまざまな「つながり」を感じ気づくことのできる会場として展開しました。

また、周遊会場（無料会場）では、黒船乗船体験や国・大学等の協力による多種多様な機能を持つ船舶の一般公開に加え、海のエジプト展・海フェスタよこはまなど、会場周辺における関連事業の開催や開港5都市・5か国・神奈川県下市町村の物産展などを開催しました。

さらに、開催時における来場者等への対応として、交通輸送対策の実施、各種イベント情報の発信を行う情報センター関連の管理・運営、及び会場の案内等を行うボランティアの運営管理を行いました。また、入場券販売管理センターにおいて入場券の販売を行うとともに、横浜の未来を担う子どもたちに「開国・開港」を学んでもらえるよう教育プログラムを実施しました。

そのほか、FUN Eプロジェクト、キャンドルカフェ 2009、「DO-RA-MA YOKOHAMA 150」など、さまざまな市民参加活動を実施しました。

○ テーマイベント関連

8,790,552千円【予算現額：8,704,988千円】

① ベイサイドエリア会場整備

7,117,621千円（予算現額：7,051,700千円）

会場設営及び運営等を実施

〔環境への配慮から、Y150 トゥモローパーク（新港7街区）の壁面を緑化したことや、来場者の増加・満足度を向上させるため、宇宙天文年の

開催や再使用ロケット実験機の展示・月周回衛星「かぐや」の撮影映像の公開など、コンテンツの充実を図ったことなどにより、予算現額に比して約6千万円の増となりました。]

② ヒルサイドエリア関連

1, 672, 931千円 (予算現額：1, 653, 288千円)

会場設営及び運営等を実施

[竹の海原などの会場で使用した「竹」を紙として再利用する事業を行ったことにより、予算現額に比して約2千万円の増となりました。(ただし、この費用は、全て企業協賛で行っております。)]

○ 交通輸送対策関連

733, 979千円 [予算現額：746, 091千円]

イベント開催中における来場者の安全確保及び円滑な輸送等を実施

○ 入場券販売管理センター関連

515, 724千円 [予算現額：506, 421千円]

・入場券販売関連 376, 258千円

入場券の管理、委託販売、出札窓口等における販売業務の実施、販売代金の管理、入場券の印刷・管理等を実施

・業務奨励金 67, 890千円

入場券の委託販売業務に伴う奨励金

・教育プログラム関連 71, 576千円

小・中・高生を対象とした教育サポート業務の実施

○ 情報センター関連 220, 000千円 [予算現額：217, 361千円]

イベントに関する様々な情報の提供を実施

○ 市民参加関連 **316,332千円** [予算現額: 315,145千円]

- ・ Y150 ボランティアの受入等

94,799千円 (予算現額: 100,000千円)

約2,600名を超えるボランティアの活動(案内サービス、環境美化活動、迷子対応補助など)の拠点となるボランティアセンターを運営

- ・ ベイサイド市民参加事業等

77,923千円 (予算現額: 80,000千円)

市民団体等が一同に集まり、日々活動している多彩なプログラムが体験できる市民参加イベントを開催

- ・ FUNEプロジェクト 83,610千円 (予算現額: 79,145千円)

横浜港を彩った実際の船をモチーフとして、ダンボールなどの素材により、市民の方々が制作した150艘の船を展示

- ・ DO-RA-MA YOKOHAMA 150

32,000千円 (予算現額: 28,000千円)

舞台創造活動の実施

- ・ 横濱・開港キャンドルカフェ 2009

28,000千円 (予算現額: 28,000千円)

運河パーク及びナビオス横浜において、キャンドルカフェ 2009 を実施

○ その他テーマイベント運営経費

476,514千円 [予算現額: 583,046千円]

都市交流連携事業、会場使用料、保険料、船舶誘致、プロデューサー等への委託など

○ 事務局関連経費 **482,636千円** [予算現額: 553,879千円]

(2) 管理費 [992, 203千円 予算現額：901, 009千円]

《主な実施内容》

「開国博Y150」の周知及び来場意欲の向上を図るため、各種メディア（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ）の活用や公式ガイドブックの販売、ポスター、チラシ、パンフレット等の制作によるイベントの広報宣伝活動を実施しました。

さらに、会場で配布するガイドマップ等の制作により、来場者の利便性に努めました。

また、150周年のイベントが将来に引き継がれるよう公式記録集の作成に着手しました。

○ 広報関連 751, 062千円 [予算現額：662, 867千円]

① 広報・宣伝 245, 448千円 (予算現額：186, 564千円)

- ・会場ガイドマップ制作
- ・「開国博Y150」チラシ新聞折込（読売新聞、朝日新聞、神奈川新聞）
- ・ポスター制作
- ・公式記録作成
- ・Y150公式WEBサイトの運営

② メディア活用広報

337, 428千円 (予算現額：306, 303千円)

- ・広報活動
各種メディアへの掲載・露出促進のための広報素材の企画・開発・実施
テレビ・雑誌等の編集タイアップの企画・コーディネート・実施
- ・交通広告の実施
(東急、京急、市営地下鉄、JR)
- ・屋内外への広告の実施
(渋谷キューフロント、横浜駅、中山駅等)
- ・新聞広告掲載の実施
(読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、神奈川新聞等)
- ・地元電波メディアへの広告実施
(テレビ神奈川、横浜エフエム放送、ラジオ日本)

③ 広域広報 168,186千円 (予算現額：170,000千円)
横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン等

○ 事務局関連費 241,141千円 (予算現額：238,142千円)

※ 予備費として計上していました265,204,000円のうち、
24,526,508円を①事業費支出 雑支出に充当使用し、当該科目の予算額に含めて表示充当しました。

【当期収支差額】

本年度における、事業活動収入額と事業活動支出額との差額は、 $\Delta 4,374,567,797$ 円となりますが、平成20年度からの繰越金が2,082,800,965円ですので、本年度末では、次期繰越収支差額は $\Delta 2,291,766,832$ 円となります。

当該差額の対応に関しましては、現在、イベント業者等との特定調停を申し立てております。